全量種子更新100%の実施！

令和６年産 みなみ筑後の麦づくりこよみ

作成日：令和5年7月28日
南筑後農業協同組合
南筑後普及指導センター

赤かび病防除の実施による高品質麦づくり！

喜ばれるみなみ筑後の麦作りを行いましょう！

① 全量種子更新の実施
② 土づくりの実施
③ 赤かび病防除の実施
④ タンパク質含有率等の向上

月旬 / 項目	11 中	11 下	12 上	12 中	12 下	1 上	1 中	1 下	2 上	2 中	2 下	3 上	3 中	3 下	4 上	4 中	4 下	5 上	5 中	5 下	6 上
生育期間		播種適期	栄養生長期間									幼穂伸長期間			登熟期間						
主な作業【資材名】(実施日)	土壌改良材 優良種子の準備	種子消毒	基肥施用	播種	除草剤散布	麦踏み① (3枚以上の頃)	追肥(小麦) 土入れ(排水)①	麦踏み② 土入れ(排水)②	追肥(大麦)	麦踏み③ 除草剤散布	麦踏み④	土入れ(排水)③			穂揃期追肥	赤かび病防除			収穫		

※○印の数字は、作業回数を表わす。

品種特性表

区分	品種名	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂数	耐倒伏性	栽培上の注意点
小麦	シロガネコムギ にしのやわら	4.10	5.28	80	8.1	556	極強	穂数の確保を図り、穂発芽に注意する。
小麦	みなみのやわら	4.14	6.3	84	7.7	507	強	パン・中華麺用小麦。赤かび病・穂発芽に注意する。
大麦	はるしずく	4.8	5.21	87	6.9	583	強	早播きや播種量増は避け、適期播種適正播種量を守る。ヤギシロトビムシの害は小麦より出にくい。

※「みなみのやわら」は、「ミナミノカオリ」の特性を準用。

カラスノエンドウ

カズノコグサ

スズメノテッポウ

赤かび病

小麦の収穫期の水分と適切な収穫法

子実水分	適切な収穫法
% 25～30	コンバイン収穫はできるが品質をわずかに損う
20～24	コンバイン収穫に適する
17以下	脱粒などのロスが多く、品質が著しく悪くなる

	仕上水分
小麦	11.5%以下
大麦	12.5%以下

1. 播種適期・播種量

小麦	播種適期	11月15日～11月30日
	播種量	6～7kg／10a
大麦	播種適期	11月25日～12月10日
	播種量	5kg／10a

※適期播種に努める。
※大麦は早播きすると品質が低下し、遅播きすると収量が低下します。
※5cm以上の深播きは行わない。
※播種が遅れた場合は、3割程度播種量を増やす。
※土壌が乾燥している場合は播種後鎮圧を行う。

2. 種子消毒

種子更新をしましょう!!

対象病害虫	薬剤名	処理方法および処理時期
斑葉病 裸黒穂病 なまぐさ黒穂病	ベンレートTコート	乾燥種子重量の0.5% 【種子10kgに50g】を種子粉衣する。
ヤギシロトビムシ(小麦のみ)	クルーザーFS30	乾燥種子1kg当り原液6mℓ 【種子10kgに60mℓ】を塗抹処理する。
大麦 網斑病・斑葉病	キヒゲンR-2 フロアブル	乾燥種子1kg当り原液20mℓ 【種子10kgに200mℓ】を塗抹処理する。
小麦 なまぐさ黒穂病		

※クルーザーFS30を使用する場合は、種子10kgに対し水60mℓを馴染ませた後、クルーザーFS30を60mℓ塗抹処理し、殺菌剤(ベンレートTコート)を種子粉衣する。

3. 土づくり基準

排水対策	地下排水	有材暗渠+弾丸暗渠
	表面排水	圃場周囲+うね間(畑地に溝を切り排水溝に進む。)
有機物の施用	稲わら	全量12～15cmの深さですき込む
	堆肥	牛ふん(発酵処理物1～2t)
	資材名	10a当り施用量
土壌改良資材	とれ太郎	60kg
	ミネラルG	160kg
酸性矯正資材	炭酸苦土石灰	200kg
	消石灰	160kg

※特に大麦は、酸性土壌に弱いので酸性矯正資材を投入する。
※堆肥散布後は、直ちにすき込みを行う。
※稲わらは、焼却せず有機物の施用としてすき込む。

4. 施肥基準 (適期播)

※タンパク質含有率を上げるため一発追肥又は2回追肥を行いましょう！

施肥項目・時期及び肥料 / 品種名	基肥 ちくごのめぐみ 444 (14-14-14)	一発追肥(穂揃期) 麦専用 (21-0-0)	追肥 小麦 1月中旬～1月下旬	追肥 小麦 1月中旬～1月下旬 / 大麦 2月上旬～下旬	追肥 小麦 2月下旬～3月上旬 / 大麦 2月上旬～下旬	穂揃期追肥 4月下旬(穂揃期) 硫安 (21-0-0)
小麦 シロガネコムギ にしのやわら	40kg	麦追肥一発2号 (24-0-5) 40kg	NK2号 (16-0-16) 30kg	NK2号 (16-0-16) 10kg		—
小麦 みなみのやわら	40kg	硬質小麦専用追肥 (30-0-4) 40kg	NK2号 (16-0-16) 30kg	NK2号 (16-0-16) 10kg		10～15kg
大麦 はるしずく	20kg	—	NK2号 (16-0-16) 20kg			—

※大豆後作は基肥を大麦小麦ともに50%程度減量し、追肥についても生育状況により加減する。
※稲わらを全量すきこむ場合は基肥を10kg増量する。
※追肥の後は効果を安定させるため土入れを必ず実施する。
※みなみのやわらは、タンパク質含有率を上げるために、穂揃い期の追肥(実肥)を実施する。

5. 病害虫防除

対象病害虫	薬剤名	処理方法	使用回数	使用時期
赤かび病	トップジンM粉剤DL	4kg/10a	出穂期以降 小麦2回以内 大麦1回以内	収穫14日前まで
	トップジンM水和剤	1000～1500倍 100ℓ/10a		小麦 収穫14日前まで 大麦 収穫30日前まで
	ミラビスフロアブル	8～16倍 0.8ℓ/10a (無人航空機散布)	2回以内	小麦 収穫7日前まで 大麦 収穫14日前まで
		1500～2000倍 100ℓ/10a		
	トップジンMゾル (無人航空機散布)	8倍 0.8ℓ/10a	出穂期以降 小麦2回以内 大麦1回以内	小麦 収穫14日前まで 大麦 収穫21日前まで

※みなみのやわらは、赤かび病に弱いので2回防除を行う。1回目はミラビスフロアブル、2回目はトップジンM水和剤・ゾルの使用を基本とする。

6. 除草基準

土壌処理剤を必ず使用しましょう。

区分	薬剤名	処理時期	10a当り使用量(散布量)	使用上の注意事項
雑草多発田	バスタ液剤	播種前又は播種後出芽前	300～500mℓ (100～150ℓ)	農地及び畦畔には必ず農耕地用除草剤を使用する。乳剤、粒剤ともに排水不良田や降雨(特に大雨)の前後には使用しない。
	ラウンドアップマックスロード	耕起前又は播種後出芽前	200～500mℓ (25～100ℓ)	
土壌処理剤	クリアターン乳剤	播種直後(雑草発生前)	500～700mℓ (70～100ℓ)	
	クリアターン細粒剤F		4～5kg	
	リベレーターG(粒剤)	播種後～麦2葉期(雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで)	4～5kg	
	リベレーターフロアブル	播種後～麦3葉期(雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで)	60～80mℓ (100ℓ)	
茎葉処理剤	ハーモニー細粒剤F	播種後～麦3葉期(雑草発生前～発生始期)	4～5kg	一年生広葉雑草の残存雑草の多い場所に散布する。除草剤抵抗性スズメノテッポウには効果がないので注意する。
	ハーモニーDF	播種後～節間伸長前	5～10g (100ℓ)	
	エコパートフロアブル	麦節間伸長開始期まで(広葉雑草2～4葉期まで)	50～100mℓ (100ℓ)	ヤエムグラの多い場合。

※ バスタ液剤、ラウンドアップマックスロード、ハーモニーDFの散布については周辺作物に薬害を与えるため、散布時の飛散(専用ノズルの使用)に十分注意する。
※ ハーモニーDF散布に用いた器具類は消石灰500倍液を10分間循環させた後、水洗いをする。
※ ハーモニー細粒剤F・ハーモニーDFはどちらか一剤だけ、1回のみの散布。
※ 土壌処理剤は土塊が大きいと薬害がでやすいので十分砕土を行い、2～3cmの深さに播種する。
※ カラスノエンドウは、除草剤散布に加え、花が咲く頃までに必ず抜き取る。
※広葉雑草には、ハーモニーDF5gにサーファクタント30を加用する。

7. 適期管理作業

適期管理作業が速やかに行えるように、排水対策を行っておくことが基本。

(1) **土入れ** 雑草や無効分げつの抑制・倒状防止・表面排水等の効果がある。1月上旬～中旬(本葉3～4枚頃)・2月上旬～中旬・3月上旬の土壌の乾燥した日に行う。第1回目は浅く、2回目、3回目と麦の生育にともなって土の量を増やしていく。
(2) **麦踏み** 分げつ促進と徒長の防止に効果がある。1月上旬～2月中下旬(節間伸長開始まで)に土壌の乾燥した午後に3～5回行う。
(3) **土入れ・麦踏み作業での注意事項**
① 土入れは麦踏み前に行い、麦踏み直後には行わない。
② 麦踏みは茎葉に霜・露があるとき行うと損傷が大きい。
また、土が湿っている時に行うと土をしめつけることにより、その後の生育を抑制するので注意する。

8. 倒伏防止対策

《基本対策》
(1) 適期に適量の播種を行う。
(2) 踏圧・土入れ、排水対策などの管理作業を徹底する。

南筑後農業協同組合農畜産課 TEL(63)-8814
南筑後普及指導センター TEL(62)-4191
瀬高グリーンセンター TEL(62)-4111
大牟田グリーンセンター TEL(56)-8915
山川グリーンセンター TEL(67)-1214
高田グリーンセンター TEL(22)-3218

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう！